

日本：鉱工業生産指数（2014年8月）

MRI Daily Economic Points
September 30, 2014

図表 鉱工業生産／在庫指数



図表 製造工業生産予測指数



評価ポイント

2014年8月の結果

- 8月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲1.5%となった。7月は同+0.4%と消費税増税後初めて上昇に転じたが、8月は再び低下に転じた。
- 内訳をみると、業種によりばらつきがみられ始めている。鉄鋼や化学などの素材業種では、下げ止まり、もしくは持ち直しの動きがみられる。一方、電気機械や輸送機械、情報通信機械など加工業種では、生産の低下傾向が続いている。増税後の反動減などから自動車や家電、パソコンなどの需要落ち込みが続いているためとみられる。
- 在庫指数は前月比+1.0%と4ヵ月連続の上昇。増税後の反動減に加え、8月の天候不順による消費不振が影響した可能性もある。加工業種を中心に在庫が高水準で推移しており、生産への下押し圧力となっている。
- 生産予測調査によると、9月見込みはほぼすべての業種で増加が予想されており、製造工業全体で前月比+6.0%となった。10月も同▲0.2%と横ばい圏内の推移が予想されている。ただし、実績が予測調査を下回る傾向が続いており、その点は割り引いてみる必要がある。

基調判断と今後の流れ

- 鉱工業生産指数は、14年入り以降、低下傾向にある。素材業種には持ち直しの動きもみられるものの、耐久消費財など反動減の影響が大きい加工業種を中心に、在庫の上昇と生産の低下が続いている。
- 既往の生産調整の進展などから在庫調整圧力は徐々に和らぎつつあり、今後、消費や設備投資などの需要が回復に向かえば、9月以降、生産も需要見合いで緩やかに持ち直していくであろう。